

現場
 癸 富士山レンジャー
REPORT

第7回

富士山レンジャーによる
環境教育活動

富士山の環境を守り、次世代に引き継いでゆくためには、環境教育の取り組みが大切になります。「知ること」「感じること」が具体的なアクションの第一歩となるからです。特に、次世代を担う子どもたちへの環境教育は積極的に取り組む必要があるでしょう。富士山レンジャーの業務においても重要な柱となっている環境教育活動への取り組みについてまとめてみました。

① 富士山環境学習支援プログラム

富士山憲章の理念に基づき、多くの人が富士山とふれ合い、知識を深め、環境保全の意識を育むことを目的として、富士山レンジャーは、富士山ボランティアセンターの実施する、「富士山環境学習支援プログラム」の講師を務めています。主に「環境学習会」「体験型学習（富士山自然観察園ミニエコツアー）」「出張講座」の3つのプログラムを実施しています。

プログラムは修学旅行などの教育旅行や各種研修、学校の課外活動に併せて開催するものや、実際にフィールドを歩きながら富士山の噴火や成り立ち、生態系のしくみを学習するもの、地元の学校等にレンジャーが出向いて授業を行うものまでさまざまです。近年、富士山をテーマとした環境学習に取り組む学校が増え、こうした授業に出向く機会が増えています。**(写真1)**

どのようなプログラムにおいても富士山が持つ自然環境の多様な価値や抱える問題点についてわかりやすく、正確に伝えるとともに、「知識」だけでなく富士山に対する意識や行動も変化する

ような内容を目指しています。

② これまでの環境教育活動

本年度実施した「出張講座」の様相を紹介します。4月から山梨県立富士北稜高校にて実施された「ふじやま講座」の講師を行いました。この講座は、1年を通じて富士山の自然や文化だけでなく、



写真1 小学校での出張講座の様子

フィールドワークを中心とした調査研究を行うユニークな授業でした。富士山レンジャーも年間を通じて講義2回、フィールドワーク2回を担当しましたが、高校3年生ということもあり、専門的な内容と教養をバランスよく織り交ぜたプログラム作りに苦労しました。生徒からも「地元に住んでいるのに知らないことが多かった」「もっと関心をもって自分も行動したい」といった感想が寄せられました。

7月に富士吉田市立富士小学校の6年生を対象に行われた「富士山の環境について考えよう」という授業は、市の教育委員会で取り組んでいる「富士山教育」の研究授業として実施されました。環境保全の難しさについてゴミ問題を例にあげながら説明し、富士山が魅力ある観光地であり続けるためにどうすればよいか考える授業を行いました。児童は、自分たちにできることを考え、発表してくれました。

富士山学習支援プログラムについては、以下のURLから詳しい情報が得られます。お気軽にお問い合わせください。

<http://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan/fujisan001.html>

小さなものをみつけたよ
冬芽と葉痕（ふゆめとようこん）

常緑樹以外の木が葉を落としてしまった冬の森は、新緑の輝く春や紅葉が美しい秋に比べて見劣りしてしまいます。でも、冬だからこそ見ることができる木の一面があります。

葉を落とした木には冬芽（春に開く葉や花が入っている小さな芽）や葉痕（葉の付いていた痕）があります。冬芽や葉痕は木によって違った形をしていて、中には人や動物の顔のように見える物もあります。

右の写真は、富士ビジターセンターに隣接する富士山自然観察園で見つけた冬芽や葉痕です。

- ① ハートの形をしているのは「ヤマウルシ」の葉痕です。葉痕の部分がやや赤い色をしています。
- ② は「ウツギ」の葉痕と冬芽です。前髪をたてたロックミュージシャンの顔のように見えませんか？前髪に見えるのが冬芽で、顔の部分が葉痕です。
- ③は「ダンコウバイ」の冬芽の写真です。丸い形と尖った形をしているものがあります。丸いのは花芽（つぼみ）で花が入っています。尖っているのは葉芽で葉が入っています。写真は拡大していますので、実際にフィールドで冬芽や葉痕の観察を行う際にはルーペ等があると便利です。「春への備え」を着々と進めている植物の意外な一面を覗いて見てはいかがでしょうか。

